

I

■出題のねらい

エイプリルフールの起源や歴史、外国での状況を紹介した英文について、その内容把握を問う問題です。

■採点講評

□1の目付の読み方は、よくできていました。正答率が低かったのは□3です。下線部3)の前に“if someone plays a trick on you”とあるのでそれと同じ構文になっている選択肢③を選んだ人が多かったと思われます。“you”は「いたずらをされる方」なので、受動態になっている選択肢②が正答です。よく読み、英文の表す事実関係を正しく捉えることが重要です。□5は、「本文の内容に合わないもの」を選ぶ難しい問題でした。

II

■出題のねらい

スピーキングテストの準備について述べた英文の空所補充問題です。□7は、英文の内容を適切に理解するだけでなく、形容詞を修飾する副詞の知識が必要です。□12は、“tell”の後に間接目的語が必要であることを知らなければ誤答する可能性があります。全体に、一文一文が何を述べようとしているのかを把握することが必要です。

■採点講評

正答率が低かったのは、□11と□13でした。□11の正答率は、30%以下でした。正答である“while”以外の選択肢では文法が成り立ちません。英文の構造に関する知識を確実に身に付けておく必要があります。□13の正答率は40%を下回りました。□13は、他の選択肢が入る可能性もありますが、文脈から“what”しか入りません。局所的に解答するのではなく、文脈を考慮しましょう。□14は、正答率90%以上でよくできていました。

III

■出題のねらい

“gap year”をめぐる会話についての空所補充と内容把握の問題です。質問、選択肢すべて英語で出題されていますが、丁寧に英文を読めば難しい問題ではありません。

■採点講評

正答率が低かったのは□15でした。正答の“abroad”はほとんどの人が知っている単語だと思いますが、空所の前の“at home or”に惑わされたのではないかと思います。“home”が「国内で」という意味で用いられるということを知らず、「家で」の意味しか考えなかった人は混乱したでしょう。□21の正答率は50%を下回りました。しかし、会話文を最初から丁寧に読んでいれば誤答することはない問題でした。問題文も選択肢も英語で書かれている問題の対策は、「馴れる」ことにつきます。日頃から、英語を読む機会を増やして、一々、日本語に訳していくのではなく、英語のまま趣旨をとらえることを心掛けましょう。

IV

■出題のねらい

スマートフォンのような情報機器を健康管理に活用することを紹介した新聞記事を出典とする総合問題です。図中の空所補充の問題でも、英文で述べられた状況の因果関係を適切に理解しているかを問うています。

■採点講評

全体的に正答率が低く難しかったようです。特に、英文中の空所補充問題の正答率が低かったです。[22]は、万歩計等から送られる日常のデータと健康診断の結果が並置されていることに気づけば“as well as”を選択することができたと思います。難しい問題でした。正答率は、10%を下回りました。[24]～[26]の正答率も30%未満でした。[24]では、「どれぐらい食べたり、眠ったりしたらいいのかを提案する」という意味を把握しながらも、これらは数ではなく量であるため“how many”ではなく“how much”を選ぶべきだと気づかなかった人がいました。[25]も難しい問題でした。正答は“while”です。“while”には、「時間的持続」の意味だけでなく、「他方」の意味があるということを知っていなければなりません。また、英文から経済産業省と民間企業のそれぞれの役割を確認して見る必要があります。[26]は、英文全体の趣旨を理解していれば正答できました。[28]は、英文の内容に合うものを英語で示された選択肢の中から選ぶ問題です。正答の④“Smartphones are useful for giving advice on good health.”以外の選択肢は、どれも英文で全く述べられていない内容です。落ち着いて考えれば、難しい問題ではありませんでした。[29]は、図中の空所補充問題でした。本文の内容を把握していれば、問題文自体は基礎的な語しか用いていないので正答できるはずです。この正答率が約50%で、予想を下回りました。基本的な語彙や文法は反復して学習し、長文であっても臆せずじっくり理解する態度を養うことが大切です。